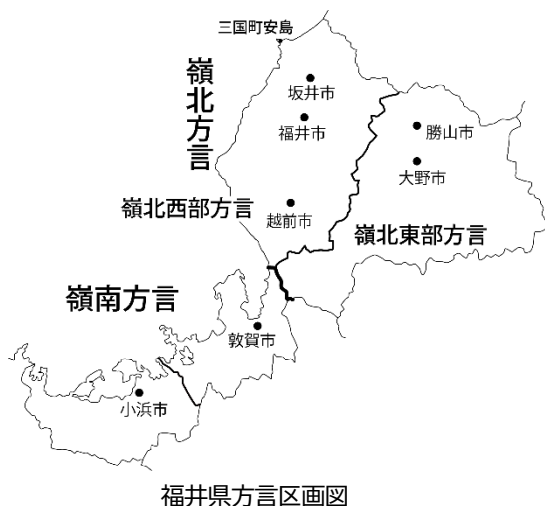


福井県坂井市三国町安島方言



福井県方言区画図

【福井県の方言区画】 福井県内の方言は最も大きく分けて、北東部（嶺北地方）の嶺北方言と南西部（嶺南地方）の嶺南方言に二分される。その方言境界は南条郡南越前町と敦賀市の市町境にほぼ一致する。東条操（1954）の方言区画によれば、嶺北方言は北陸方言、嶺南方言は近畿方言に分類され、嶺南方言の方がより近畿方言との共通性が強い。

さらに嶺北方言は福井平野を中心とした嶺北西部方言と、嶺北東部方言に大きく分けられる。音韻面での相違が大きく、西部は無型アクセントまたはN型アクセント（上野 1984）の分布域、東部の山間地は多型アクセントの分布域にあたる。

【三国町安島方言について】 坂井市三国町安島（あんとう）は、福井県の北部、日本海に突き出た安島岬の先端にある人口約 850 人（2024 年時点）の漁村である。北前船の寄港地として栄えた三国の市街地から約 4km 北に位置し、安島でも近世以降多くの者が海運業に従事した。近年は船員になる者も大型漁船もなくなったが女子が行う海女漁は残り、わかめ、さぎえ等を産する海女の村としても知られる。

地形的にもまた社会的にも周辺の農村とは距離があり、言語的にも周辺とは大きく異なる特徴が目立つ。とはいえ言語体系の大部分は周辺の嶺北西部方言あるいは石川県加賀方言と共通する。

細かな相違を挙げると枚挙に暇がないが、この方言を「言語島」たらしめる主たる特徴を挙げる。

(1) 安島固有のアクセント体系。語の長さにかかわらず 3 種類の音調型が区別される「三型アクセント」である（松倉・新田 2016）。隣接する 2 集落（三国町崎、三国町梶）も三型だが表層の音調型は安島と大きく異なる（松倉 2022）。安島、崎、梶の 3 集落の周辺には二型アクセントまたは無型アクセントが分布する（同上）。

(2) いわゆる「シラビーム方言」（柴田 1962）である。まず第一にアクセント上の語の長さを数える単位、音調を担う単位が音節である。また現状あくまでも聴覚印象に過ぎないが特殊モーラの「寸づまり」な発音がよく聴かれる（周辺方言にもその傾向がないではないが程度・頻度が明らかに異なる）。

(3) maffa 「枕」、avva 「あるわ」、ssoi 「白い」、todda 「鳥が」、tapon 「薪」（<takumon）等の特異な音変化が広範に生じている（新田 2011, 松倉・新田 2020）。これらの分節音の変化が周辺方言との相互理解度を低下させている。

(4) 生産的な敬語派生接辞がない。クンサル「くださる」といった敬語動詞が若干あるのみで、敬語が不活発な方言と言える。例えばやや目上の人に対する提案場面でもンダ ハコンダル「私が運んでやる」のような敬語を含まない率直な表現が使われる。

(5) 1 人称代名詞「ンダ」。周辺方言は「ウラ」である。出現頻度が高い分、特に目立つ特徴である。男女ともに用いる。

【表記について】 軟口蓋鼻音 [ŋ] はガ、ギ、グ…と表記する。語頭の「ッ」は語頭の長子音を表す（例：ツソイ [ssoi]）。ツファは [ffa]、ツヴァは [vva] を表す。鼻音の前の「ッ」は鼻的破裂音を表す（例：ツナ [tʰna]）。ケア [kɕa]、レア [rɕa] 等の表記は 1 音節にまとまる ea（二重母音 ɕa）を表す。

【調査概要】 本稿の記述は安島出身・在住の 1941 年生女性話者、1942 年生女性話者への聞き取り調査に基づく。

福井県坂井市三国町安島方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	食う	一段型 見る	来る	する
終 止 類	断定非過去	カク	クー フー	ミル	クル	シル
	断定過去	カイタ	クタ フタ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ	ツフェ	ミレ ミ (-)	コイ	セ (-)
	禁止	カクナ	クーナ フーナ	ミンナ	クンナ	シンナ
	意志・勧誘	カコ	ツフォ	ミロ	コ (-)	ショ (-) シロ
	推量	カッサロ カッキャロ	クーヤロ フーヤロ	ミツダロ	クツダロ	シツダロ
接 続 類	連体非過去	カク	クー フー	ミル	クル	シル
	連体過去	カイタ	クタ フタ	ミタ	キタ	シタ
	中止	カITE	クテ フテ	ミテ	キテ	シテ
	仮定	カイタラ カケァ カケ	クタラ フタラ ツフェァ ツフェ	ミタラ ミレア ミレ	キタラ クレァ クレ	シタラ シレア シレ
派 生 類	否定	カカン	ツファン	ミン	コン	セン
	丁寧	(欠)	(欠)	(欠)	(欠)	(欠)
	使役	カカス	ツファス	ミラス	コラス	サス
	受身	カカレル	ツファレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能	カカレル	ツファレル	ミラレル	コラレル	《デキル》
	尊敬	(欠)	(欠)	(欠)	(欠)	(欠)
	継続	カイトル	クトル フトル	ミトル	キトル	シトル
	希望	カキタイ カイタイ	クイタイ フイタイ	ミタイ	キタイ	シタイ
	のだ	カクンジャ カクンヤ	クーンジャ フーンジャ クーンヤ フーンヤ	ミルンジャ ミルンヤ	クルンジャ クルンヤ	シルンジャ シルンヤ

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak・u	カイ-タ	kをiにする。「行く」ik・uはkをQ(促音)にし「イッ-タ」。 ηをiにする。-タが-ダになる。「死ぬ」siη・uはηをN(撥音)にし「シン-ダ」。 基幹イ段形。いわゆるサ行イ音便はない。 t/cをQ(促音)にする。 bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。 mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。 rをQ(促音)にする。 wはø(子音なし)に。wの前の母音がaの場合はoに変える。 基幹が1拍の場合は長音化する。ただし「食う」ku(w)・uは長音化せず「ク-タ」。
η	嗅ぐ kaη・u	カイ-ダ	
s	出す das・u	ダシ-タ	
t/c	待つ mac・u	マッ-タ	
b	飛ぶ tob・u	トン-ダ	
m	飲む nom・u	ノン-ダ	
r	切る kir・u	キッ-タ	
w/ø	買う ka(w)・u	コー-タ	

《形容詞》

		赤い	大きい	無い	酸っぱい
終止類	断定非過去	アカイ アケー	イカイ イケー	ネー ナイ	スイ
	断定過去	アカカッタ △アケカッタ	イケカッタ イカカッタ	ネカッタ ナカッタ ネーカッタ	スーカッタ
	推量	アカイヤロ アケーヤロ	イカイヤロ イケーヤロ	ネーヤロ ナイヤロ	スイヤロ
接続類	連体非過去	アカイ アケー	イカイ イケー	ネー ナイ	スイ
	連体過去	アカカッタ △アケカッタ	イケカッタ イカカッタ	ネカッタ ナカッタ ネーカッタ	スーカッタ
	中止	アコテ アカカッテ	イコテ イカカッテ	ノーテ ナカッテ	スーテ スーカッテ
	仮定	アカケレア アカカッタラ	イカケレア イカカッタラ	ネケレア ナケレア ナケネア ネケネア ナカッタラ	スーケレア スーカッタラ
派生類	否定	アコネー	イコネー		スーネー
	なる	アコナル	イコナル	ノーナル ノナル	スーナル
	副詞	アコ	イコ		スー
	そうだ(様態)	アカソ (-) ヤ	イケソ (-) ヤ イカソ (-) ヤ	ナサソ (-) ヤ	スイソ (-) ヤ
	丁寧	(欠)	(欠)	(欠)	(欠)
	のだ	アカインジャ アケーンジャ アカインヤ アケーンヤ	イカインジャ イケーンジャ イカインヤ イケーンヤ	ネーンジャ ナインジャ ネーンヤ ナインヤ	スインジャ スインヤ

《形容名詞述語・名詞述語》

		静か (だ)	綺麗 (だ)	学生 (だ)
終 止 類	断定非過去	シズカヤ	ケッコナ	ガクセーヤ
	断定過去	シズカヤッタ	ケッコナヤッタ ケッコナカッタ	ガクセーヤッタ
	推量	シズカヤロ	ケッコナヤロ	ガクセーヤロ
接 続 類	連体非過去	シズカナ	ケッコナ	《ガクセーノ》
	連体過去	シズカヤッタ	ケッコナヤッタ ケッコナカッタ	ガクセーヤッタ
	中止	シズカデ シズカヤッテ	ケッコデ ケッコナヤッテ	ガクセーデ ガクセーヤッテ
	仮定	シズカヤッタラ シズカナラ	ケッコナヤッタラ ケッコナカッタラ	ガクセーヤッタラ ガクセーナラ
派 生 類	否定	シズカデネー	ケッコデネー	ガクセーデネー
	なる	シズカンナル	ケッコネナル	ガクセーナル ガクセーネナル
	副詞	シズカネ	ケッコネ	
	丁寧	(欠)	(欠)	(欠)
	のだ	シズカナンジャ シズカナンヤ	ケッコナンジャ ケッコナンヤ	ガクセーナンジャ ガクセーナンヤ

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型には基幹多段型（以下「多段型」と基幹一段型（以下「一段型」）がある。多段型にはa類（「書く」・「居る」・「死ぬ」類）動詞、一段型にはb類（「見る」・「起きる」・「開ける」類）動詞が所属する。多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オ段の5形、および、音便形がある。eaが1音節にまとまり二重母音 [ea] を生じることもある。カク（書く）の場合、カカ-ン (kak·a-N)、カキ-タイ (kak·i-tai)、カク (kak·u)、カケ (kak·e)、カコ (kak·o)、カイ-タ (kai-ta)、カケア (kak·ea) など。また、語幹末子音には、k (カ行)、ŋ (ガ行)、s (サ行)、t (タ行)、b (バ行)、m (マ行)、r (ラ行)、w (ワ行) がある。語例は、表「多段型動詞の基幹音便形」を参照。語幹末子音がn(ナ行)の動詞は確認されていない（「死ぬ」は siŋ·u であり語幹末子音が ŋ に転じている）。一段型には、ミ-ル (mi-ru)、オキ-ル (oki-ru) など基幹がイ段の動詞と、ネ-ル (ne-ru)、アケ-ル (ake-ru) など基幹がエ段の動詞がある。

主要な不規則動詞にはクル（来る）とシル（為る）

がある。ともに一段型に近い活用をするが、クルは、キ-タ (k·i-ta)、ク-ル (k·u-ru)、コ-ン (k·o-N) などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の3段にわたる。シルは、サ-レル (s·a-reru)、シ-ル (s·i-ru)、セ-ン (s·e-N) などのように、基幹が「サ」「シ」「セ」の3段にわたる。さらに、ショ (s·jo) のように融合によりオ段の拗音となることもある。

一段型動詞と「クル」「シル」ではr語幹化（いわゆるラ行五段化）が発生している。命令形ミレ (mi-re)、意志・勧誘形ミロ (mi-ro)、使役形ミラス (mi-rasu) は mir-e, mir-o, mir-asu のように子音語幹 mir- を取り出し得る語形である。否定形や過去形にはr語幹化が及んでいない。

クーまたはフー（食う）は多段型とほぼ同じ活用をするが、語頭子音の交替 (k/φ ~ ff) が生じる点で不規則な動詞である。また基幹音便形も不規則である（例えば過去形が×クー-タではなくクタ）。

(2) 各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

断定非過去形は連体非過去形と同形で、多段型動

詞はウ段基幹、一段型動詞は基幹+ル、「来る」はウ段基幹+ル、「する」はイ段基幹+ルとなる。

断定非過去形はそれ単体で用いられるより何らかのモダリティ表現を伴うことが多く、例えばよく終助詞「ワ」と共起し、概略、話し手がその場で認識したことを表す(野間(2011))で記述されるような大阪方言の「ワ」と近い。動詞の末尾音節に応じて、断定非過去形+ワ全体として大きく語形を変えるため、表にまとめて示しておく。

断定非過去形+終助詞「ワ」

動詞末	語例	+ワ
ク	書く	カッフア [kaffa]
グ	脱ぐ	ヌンワ [nuūwa]
ス	出す	ダスワ [dasuwa]
ツ	待つ	マツワ [matsuwa]
ブ	呼ぶ	ヨッフア [jovva]
ム	飲む	ノンヴァ [nomɲa]
ル	切る	キッフア [kivva]
ウ	買う	カウワ [kauwa]

- ・ワレ イマ ドコ イク。(お前は今からどこへ行くの。) ※知り合いに出会った時の挨拶表現
- ・ナンガ アツテモ イッフア。(何があっても行くよ。)
- ・ホベッタニ ホクロガ アルナ。(頬に黒子があるね。)

〈断定過去形〉

断定過去形は連体過去形と同形で、多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」「する」のイ段基幹に「タ」を付した形となる。ただし語幹末子音がŋ, b, mであればタは-ダになる。

オチル(落ちる)の過去形はチが促音化して「オツタ」となる。

- ・メーネ ムツシャ ハイツタ。(目に虫が入った。)
- ・コーズイネ ハツシャ オツタゾ。(洪水で橋が落ちたぞ。)

〈命令形〉

多段型動詞はエ段基幹(「カケ」)、一段型動詞は基幹単体または基幹に「レ」を付した形(「ミレ」)となる。基幹が1モーラの場合長音を伴い得る(「ミー」)。

一段型動詞ツケル(くれる)は例外的に基幹「ツ

ケ」単体またはこれに「ダ」を付けた形(「ツケダ」)が命令形となる。またクンサル(くださる)も命令形は不規則な語形(「クンサイ」)である。「食う」の命令形は「ツフェ」、「来る」は「コイ」、「する」は「セ(ー)」となる。

- ・モー オケイヤ。(もうやめろよ。)
- ・バインゴ {イレレ/イレ}マ。(薪を入れる。)
※バイン：薪
- ・カオサ ミレア アマネ デー アマネ デ ニツテ。(顔さえ見れば「海女漁に出ろ」「海女漁に出ろ」と。)
- ・ホレ {ミシテツケ/ミシテツケダ}。(それを見せてくれ。)
- ・ココネ ナーオ カイテクンサイ。(ここに名前を書いてください。)
- ・ハヨ セマ。(早くしろ。)

〈禁止形〉

非過去形に「ナ」を付ける。語幹末子音がŋ, b, mの多段型動詞と一段型動詞と「来る」「する」(非過去形がグ、ブ、ム、ルに終わる動詞)はグ、ブ、ム、ルが撥音化する。

- ・サケ ノンナイヤ。(酒を飲むなよ。)
- ・バインゴ イレンナ。(薪を入れるな。)

〈意志形・勧誘形〉

多段型動詞はオ段基幹(「カコ」)、一段型動詞は基幹に「ロ」を付した形(「ミロ」)、「食う」は「ツフォ」、「来る」は「コ(ー)」、「する」は「ショ(ー)」または「シロ」となる。

- ・イッシュョネ イコ。(一緒に行こう。)
- ・ヘンマママ クテカラ デロサ。(昼ご飯を食べてから出ようよ。)
- ・アシタモ {コ/コー}サ。(明日も来ようよ。)
- ・イッシュョネ {ショ/ショー}サ。(一緒にしようよ。)

終助詞「サ」と共起した場合は勧誘の解釈のみ可能となる。

〈推量形〉

推量形は非過去形に「ヤロ」を続けた形である。ただしグ、ブ、ムに終わる非過去形の場合は語末音節が撥音化し「ザロ」が付いた形、ク、ス、ツ、ルに終わる非過去形の場合は動詞末が促音化しそれぞれに「サロ」または「キャロ」、「サロ」、「ツァロ」、

「ダロ」が付いた形となる。ちなみににに終わる否定形には「ジャロ」が続く。

非過去形・否定形+「ヤロ」

動詞末	語例	+ヤロ
ク	書く	カッサロ カッキャロ
グ	脱ぐ	ヌンザロ
ス	出す	ダッサロ
ツ	待つ	マツツァロ
ブ	呼ぶ	ヨンザロ
ム	飲む	ノンザロ
ル	切る	キッダロ
ウ	買う	カウヤロ
ン	来ん	コンジャロ

- ・オババ アシタ ウチネ オツダロカ。(おばあさん、明日家に居るだろうか。)
- ・アシタ ハレツダロカナ。(明日は晴れるだろうな。)
- ・ガンジョ ヤツタラ ヨロコンザロナ。(ウニをあげたら喜ぶだろうな。)

非過去形がクに終わる動詞は 2 つの推量形(「～サロ」と「～キャロ」)を併用する。ただしどちらか 1 つの語形しか許容しない動詞も一部ある。

- ・イマ ミクニ {イッサロ／×イッキャロ}カ。(今三国へ行くだろうか。)
- ・{×クダッサロ／クダッキャロ}カ。(砕くだろうか。)

〈連体非過去形〉

上述のとおり、断定非過去形と同形である。

- ・ドヤッテ シトツダ イク ツモツダ。(どうやって一人で行くつもりだ。)

〈連体過去形〉

上述のとおり、断定過去形と同形である。

- ・ネツツォ ダシタ コネ クスツド ノマシタ。(熱を出した子に薬を飲ませた。)

〈中止形〉

多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」「する」のイ段基幹に「テ」を付した形となる。語幹末子音が η, b, m であれば-テは-デになる。過去形の-タ(-ダ)を-テ(-デ)に置き換えた形に等しい。

- ・チョココリ タオレテ ヤスメイヤ。(少し横になって休めよ。)
- ・イケコトイケコト モロテ オーキニノ。(こんなにたくさんもらってありがとうございます)

ますね。)

〈仮定形〉

仮定形には 2 つの形がある。1 つ目は、多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」「する」のイ段基幹に「タラ(ダラ)」を後接させた形である。予測的条件文、事実的条件文、過去の反復習慣を表す場合に広く用いられる。

- ・イマカラ テガミオ {カイタラ／カケア}アシタ トドツファ。(今から手紙を書けば明日届くよ。)<予測的条件(後件:断定)>
- ・ママ クタラ ハーオ ミガカナ アカンゾ。(ご飯を食べたら歯を磨かなければいけないぞ。)<予測的条件(後件:義務)>
- ・テガミ ダシタラ スンネ ヘンジ キタワ。(手紙を出したらすぐに返事が来た。)
- ・ムカシャ アノウチ {イツタラ／イクトト}イツモ アメ ッケタワ。(昔はあの家に行くといつも飴をくれた。)*イクトト:非過去形+「トト」は反復習慣を表す条件表現

2 つ目は、多段型動詞の ea 段基幹(「カケア」)、および、一段型動詞の基幹、「来る」のウ段基幹、「する」のイ段基幹にレア [rea] を後接させた形(「ミレア」)である。話者によりまた発話により「ア」を除いた形(多段型動詞のエ段基幹(「カケ」)、一段型動詞の基幹、「来る」のウ段基幹、「する」のイ段基幹にレを後接させた形(「ミレ」))にも実現するが、この形を内省では許容しない話者もいる。なお語幹末子音が w の場合、その直前の母音が u かそれ以外かに応じて語形が異なる。ユー (ju(w)・u) (言う) のように語幹末の母音が u であれば上記の規則通りユウエア (juw・ea) となるがカウ (ka(w)・u) (買う) の仮定形はカヤ (ka・ja) である。語幹末子音 w が脱落している上に ea から転じた ja が後接する。予測的条件文(後件に命令・意志・義務等のモダリティ表現を含まないもの)、反事実的条件文、恒常的条件文で広く用いられる。

- ・カイトツケレ イーンジャモ。(書いてくれれば良いんだもの。)
- ・コレサエ カヤ アンシンヤ。(これさえ買えば安心だ。)
- ・モット ハヨ クレア マニ オータノニナ。(もっと早く来れば間に合ったのにね。)

- ・ダレデモ トッショ トレア チョッシャ
ワルナツヴァナ。(誰でも年を取れば体調が悪くなるよね。)

2 つ目の仮定形+イカッタ (良かった) は母音の脱落 (~レア イカッタ → ~レカッタ) を生じ形態的に融合し、後悔の意を表す形式となる。多段型動詞のエ段基幹に「カッタ」、一段型動詞の基幹、「来る」のウ段基幹、「する」のイ段基幹に「レカッタ」を付けた形と分析することもできる。

- ・コンナ アタマ イーカッタンナラナ コー
コー イケカッタワイヤ。(こんなに頭が良かったのならね、高校に行けば良かったよ。)

〈否定形〉

多段型動詞のア段基幹、一段型動詞の基幹、「来る」のオ段基幹、「する」のエ段基幹に「ン」を接続させて作る。

ただしシル (知る) の否定形では基幹が「ツサ」に交替する。アル (ある) の否定形には形容詞ネー (無い) が語彙的に補充される。

否定形は以下のように活用する。

非過去形	カカン
過去形	カカナンダ
中止形	カカナンデ
仮定形	カカネア、カカナ カカナンダラ

- ・アメガ フランサケ ハガ シннаベテモタ。
(雨が降らないから葉が萎れてしまった。)
- ・ンダ ツサンガ。(私は知らないよ。)
- ・ダレモ コナンデ ミセ シメタンジャ。(誰も来なくて店を閉めたんだ。)
- ・ハヨ シタク セナ シガ ッフェッド。(早く準備しなければ日が暮れるぞ。)

仮定形「~ナ」+「アカン」「ナラン」は義務・必要の意味を表す。「ナラン」が後続する場合仮定形末尾のナは撥音化する。

- ・ッフォンネノ クサオ カラナ アカンガ。
(畦の草を刈らなければならない。)
- ・ッフォンネノ クサオ カラン ナランガ。
(畦の草を刈らなければならない。)

〈丁寧形〉

この方言には丁寧形を作る生産的な文法形式がない。

〈使役形〉

多段型動詞のア段基幹に「ス」、一段型動詞の基幹と「来る」のオ段基幹には「ラス」、「する」のア段基幹に「ス」を続ける。ほぼ多段型動詞と同様の活用をするが否定形が「~セン」も併用する点是不規則的である。

使役形は以下のように活用する。

非過去形	カカス
過去形	カカシタ
命令形	カカセ
禁止形	カカスナ
意志形	カカソ
仮定形	カカセア、カカシタラ
否定形	カカサン、カカセン

- ・トッショッド イスネ ネマラシタ。(年寄りを椅子に座らせた。) ※ネマル：座る
- ・ウチマデ モツテコラソサ。(家まで持って来させようよ。)
- ・ンダラモ タベラサレタンヤッテ。(私たちも食べさせられたんだって。)

〈受身形〉

多段型動詞と「する」のア段基幹に「レル」、一段型動詞の基幹と「来る」のオ段基幹には「ラレル」を続ける。受身形自体は一段型動詞と同様の活用をする。

- ・エンメネ ツファイツカレタ。(犬に咬みつかれた。)
- ・バイネ ケツォ カチマワサレタ。(棒で尻を叩かれた。)

〈可能形〉

可能形は受身形と同形である。ただし「する」に限りデキル (出来る) が語彙的に補充される。いわゆる能力可能と状況可能の形式上の区別はない。

- ・マダ ツファレルノネ モッタイナー。(まだ食べられるのにもったいない。)
- ・サブテ イノカレンガ。(寒くて動けないよ。)
- ・モット チカラオ ダサレレア イーケドナ一。(もっと力を出せばいいけどな。)

〈尊敬形〉

この方言には、クンサル「くださる」といった語彙的な尊敬動詞がいくつかあるが、尊敬形を作る生産的な文法形式はない。

〈継続形〉

多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」「する」のイ段基幹に「トル」を付した形となる。ただし語幹末子音が η, b, m であれば-トルは-ドルに有声化する。継続形自体は多段型動詞と同様の活用をする。動作継続（進行）と結果継続ともにこの形式で表す。

- ・カゼガ ファイテ ゴンガ モートツヴァ。(風が吹いてゴミが舞っている。)
- ・マドガ アイトツヴァ。(窓が開いている。)
- ・ココネ スワツテ マツレイヤ。(ここに座って待っているよ。)

〈希望形〉

多段型動詞及び「来る」「する」のイ段基幹、一段型動詞の基幹に「タイ」が付いた形となる。語幹末子音が k であれば基幹音便形に「タイ」が付いた形も併用される（ただしこの語形を許容しない話者もいる）。語幹末子音が η, b, m であれば基幹末が撥音化しかつ語幹末子音が b である場合-タイが-ダイに有声化する。希望形自体は形容詞と同様の活用をする。タイ（ダイ）は母音が融合しテー（デー）となることもある。

希望形

動詞末	語例	希望形
ク	書く	カキタイ、カイタイ
グ	脱ぐ	ヌギタイ、ヌンタイ
ス	出す	ダシタイ
ツ	待つ	マチタイ
ブ	呼ぶ	ヨンダイ
ム	飲む	ノンタイ
ル	切る	キツタイ
ウ	買う	カイタイ

- ・ナンゴ クイタイ。(何が食べたい?)
- ・テレビ ミトツドリ ホンゴ ヨンテーワ。(テレビを見ているより本を読みたいよ。)
- ・コレワ フイトネーワ。(これは食べたくないよ。)

〈のだ形〉

各種活用形に「ンジャ」または「ンヤ」が付いた形である。ただし「～ン」に終わる否定形に対しては「ノヤ」が付く。

- ・モッコモツチャ ミミズ クーンジャナ。(モグラはミミズを食べるんだな。)

- ・シュージ ナロートト ミギニ ナルンジャ。(習字を習うと右利きになるんだ。)

- ・アントコトバニワ シャベランノヤ。(安島方言では喋らないんだ。)

- ・ナンモナンモ デキンノヤモ ハンデカカリ ンタナ。(なんにもできないんだもの、あんぼたんみたいだ。) ※ハンデカカリ：(物が)壊れかけの、(人が)頼りにならない

ちなみに非過去形+「ンジャッタ」は直前相の意を表すアスペクト表現となる。

- ・モー チョッコリデ ウミネ オチルンジャ ツタ。(もう少しで海に落ちるところだった。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の規則的な活用型は一つである。語幹末母音が a である場合、一部の活用形には交替語幹が用いられる。アカイ（赤い）を例に挙げると、語幹「アカ」は中止形、否定形、なる形で「アコ」に交替する。また過去形では語幹「アケ」に交替し得る。ヨワイ（弱い）などワで終わる語幹は中止形、否定形、なる形で「ヨー」に交替する。

語幹が1モーラの形容詞はそれぞれに不規則な語幹の交替を呈する。例えばネー（無い）には6種（ネ、ネー、ナ、ノー、ノ、ナサ）、スイ（酸っぱい）には3種（ス、スー、スイ）の語幹を認められる。

〈断定非過去形〉

断定非過去形は連体非過去形と同形で、語幹に「イ」を後接させる。語幹末母音が a である場合、母音の融合が生じ得る（イカイ→イケーなど）。母音融合の生じやすさには語ごとに差があるようだが詳細は未詳である（音環境や使用頻度が関わるか）。ネー（無い）については特に融合しやすくナイよりもネーが普通。

- ・カタモ イテーシ コシモ イテー。(肩も痛いし腰も痛い。)
- ・ワレア セーガ タカイナ。(お前は背が高いな。)

〈断定過去形〉

断定過去形は連体過去形と同形で、語幹に「カタ」を後接させる。ただしイカイ（大きい）、イタイ（痛い）、エライ（偉い）のように語幹末母音が a

でかつその直前の音節がイかエである場合、語幹末母音がeに交替する（「イケ」「イテ」等）。直前の音節がイヤエでない場合もeに交替し得るが、この場合のアケカッタ（赤かった）等は幼児語となる。

ネー（無い）は「ネカッタ」、「ナカッタ」または「ネーカッタ」と複数の語幹を併用する。

- ・シンチ イクノガ オトロシカッタナ。（便所へ行くのが恐ろしかったな。）
- ・チカラッパ {イテカッタ/イタカッタ} ゴ。（すごく痛かったぞ。）

〈推量形〉

推量形は動詞と同様に非過去形に「ヤロ」が付いた形である。

- ・アイノカゼガ フケア サブイヤロ。（北風が吹けば寒いだろう。）
- ・ドー シレア イーヤロカ。（どうすれば良いだろうか。）

〈連体非過去形〉

上述のとおり、断定非過去形と同形である。

- ・ワルイ コト シタラ ヤイト ッセッド。（悪いことをしたらお灸を据えるぞ。）

〈連体過去形〉

上述のとおり、断定過去形と同形である。

〈中止形〉

中止形には2つの形がある。1つめは、語幹に「テ」が続いた形である。ただし語幹末母音がaであればその語幹末母音がoに交替する。1モーラの語幹に「テ」は付かない。ネー（無い）の中止形は「ノーテ」、スイ（酸い）は「スーテ」、またイー（良い）は「ヨーテ」となるように必ず長音を伴う語幹に「テ」が後接する。

- ・キョーワ アツテ ドモナラン。（今日は暑くてどうしようもない。）
- ・クロテ ナンモ ンメンガ。（暗くて何も見えないよ。）
- ・ツチョテ ンメンガ。（小さくて見えないよ。）
※ツチャイ：小さい

2つめは、語幹に「カッテ」が続いた形である。このカッテ形は過去における状態・属性を表し、現在における状態・属性は表せない。

- ・ンカシャ セー {タコテ/タカカッテ} フトットタ。（昔は背が高くて太っていた。）

- ・セー {タコテ/タカカッテ} フトットル。（背が高くて太っている。）

〈仮定形〉

語幹に「ケレア」を後接させた形と「カッタラ」を後接させた形の2種類ある。これらに加えてネー（無い）には語幹に「ケネア」が続いた形もあり、文全体として必要・忠告の意を表す場合、「～ケネア」のみが適格になる。

- ・アト トバカリ ワカケレア イカッタナー。（あと10歳ほど若ければ良かったな。）
- ・ジェーキンドマ {ナケレア/ナケネア} イーノニナ。（税金なんてなければ良いのにね。）
- ・ジェンガ {×ナケレア/ナケネア} クテカレンガナー。（お金がなければ食べていけないよね。）
- ・モット エガ ンマカッタラ ヨカッタノニ。（もっと絵が上手かったら良かったのに。）

〈否定形〉

語幹に「ネー」または「ナイ」が続いた形である。語幹末母音がaであればその語幹末母音がoに交替する。中止形と同様に、語幹は必ず2モーラ以上の長さを有する。否定形はネー（無い）と同様の活用をする。

- ・アノ ポーメア ヨー ツンナ ンモネーン ジャナー。（あの男の子は魚を釣るのがうまくないんだな。）
- ・カンナリニ オトロシナイケド ジシンワ オトロシーナー。（雷は恐ろしくないが地震は恐ろしいな。）

〈なる形〉

語幹（語幹末母音aはoに交替）に「ナル」が続いた形である。なる形は動詞「なる」と同様の活用をする。

- ・ゴニンモ ロクニンモ ウンダラ シトリンベ エロナッダロ。（五人も六人も産んだら一人ぐらい偉くなるだろう。）
- ・カンノケア ナゴナッテ アツツファシナー。（髪が長くなって暑苦しいな。）

ネー（無い）とイー（良い）のなる形では2種類の語幹が併用される。

- ・シナモンガ {ノーナル/ノナル}。（品物がなくなる。）

- ・シツガ {ヨーナル／ヨナル}。(質が良くなる。)

〈副詞形〉

語幹単独(語幹末母音 a は o に交替)で副詞形となる。ただしンマイ(上手い)の副詞形は「ンマク」となる。

- ・カンノケオ モット ミッコ キットケマ。(髪をもっと短く切っておけ。) ※ミツカイ：短い
- ・ホンネ フコ クグランワイヤ。(そんなに深く潜らないよ。)
- ・ンマク イツタ。(上手く行った。)

〈様態形〉

語幹に接辞「ソ(一)」が付きさらに「ヤ」が続いた形である。ただしイカイ(大きい)、イタイ(痛い)、エライ(偉い)のように語幹末母音が a でかつその直前の音節がイカエである場合、語幹末母音が e に交替し得る。ネー(無い)やスイ(酸っぱい)の様態形は不規則でそれぞれ「ナサソ(一)ヤ」「スイソ(一)ヤ」。様態形自体は形容名詞と同様の活用をする(名詞述語型とナ付加型(後述)の活用を併用する)。

- ・トゲガ ササッテ イテソヤナ。(棘が刺さって痛そうだな。)
- ・ンマソナ ゴツツォヤナ。(うまそうなご馳走だな。)

〈丁寧形〉

この方言には丁寧形を作る生産的な文法形式がない。

〈のだ形〉

非過去形に「ンジャ」または「ンヤ」が付いた形である。

- ・ンダ キョーワ ハラアンバイガ ワルインジャ。(私は今日はお腹の調子が悪いんだ。)

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞には断定非過去形が「ヤ」で終わる活用(以下「名詞述語型」と「ナ」で終わる活用(以下「ナ付加型」)の2種類の活用型がある。ほとんどの形容名詞が名詞述語型の活用を有し、一部の語がナ付加型を併用する。現在のところ、名詞述語型の活用が許容されないナ付加型専用の形容名詞はケッコ

(綺麗)1語しか確認されていない。

〈断定非過去形〉

断定非過去形は、名詞述語型の形容名詞と名詞に「ヤ」、ナ付加型の形容名詞に「ナ」を付す。形容名詞・名詞の末尾音節と「ヤ」は以下の表のように融合することがある(融合は必須ではない)。

なお例外としてナン(何)には「ジャ」を付す。

形容名詞・名詞+「ヤ」

名詞末	語例	+ヤ
キ	柿	カッキヤ
シ・ジ	寿司・筋	スッシヤ／スツジャ
ス・ズ	烏・水	カラッサ／ミツザ
チ	餅	モツチャ
ツ	何時	イツツア
ニ	三国	ミクンニヤ
ビ	指	ユツビヤ
リ・ル	鳥・樽	トツダ／タツダ

- ・ココタツダ シズカヤナ。(このあたりは静かだな。) ※ココタリ：このあたり
- ・コンダケンベ カンタンヤガ。(これぐらい簡単じゃないか。) ※ンベ：ぐらい
- ・アコノ パーワ ケッコナ ツサガヤナ。(あそこのおばあさんは綺麗な白髪だね。)
- ・マツツダサケ ヤタインベ デトツダロゲ。(祭りだから屋台ぐらい出ているだろうよ。)
- ・ソリヤ ナンジャ。(それは何だ。)

〈断定過去形〉

断定過去形は連体過去形と同形で、名詞述語型の形容名詞・名詞に「ヤツタ」、ナ付加型の形容名詞に「ナヤツタ」か「ナカツタ」を続けた形となる。前述の断定非過去形に準じた名詞末尾音節と「ヤ」の融合が生じ得る。

- ・ウミ ハイルノガ スッキヤツタ。(海に入るのが好きだった。)
- ・アレ イツツアツタイヤ。(あれはいつだったっけ。)
- ・オンセンガ オモイデヤツタワ。(温泉が気持ち良かった。)

〈推量形〉

名詞述語型の形容名詞・名詞に「ヤロ」、ナ付加型の形容名詞に「ナヤロ」を付す。

- ・コリヤ イツファヤロ。(これはいくらだろう。)
- ・コレワ シカノ ツノヤロカ。(これは鹿の角)

だろうか。)

〈連体非過去形〉

名詞述語型の形容名詞の非過去形にのみ断定形と連体形の区別がある。連体非過去形は、形容名詞に「ナ」を付す。名詞には述語としての形はなく助詞「ノ」を用いた表現となる。

- ・ダイナ モンゴ シモトケ。(大事なものは仕舞っておけ。) ※ダイジ：大事。連体非過去形でジが撥音化する
- ・ケッコナ ミツゾ ツカワナ ショクチュードッカ デッド。(清潔な水を使わないと食中毒が出るぞ。)
- ・イマモ ドクシンノ ツレ。(今も独身である友達。)

〈連体過去形〉

上述のとおり、断定過去形と同形である。

〈中止形〉

中止形は、形容名詞・名詞に「デ」を付す形と、名詞述語型形容名詞・名詞に「ヤッテ」、ナ付加型形容名詞に「ナヤッテ」を付す形と2種類ある。このうち「～ヤッテ」は過去における状態・事態を表す。

- ・ケッコナ コデ ケナルイワナ。(綺麗な子で羨ましいよね。)
- ・エラソナヤッテ ジーオ キライヤッタンジャ。(偉そうで<=偉そうに>おじいさんが嫌いだったんだ。)
- ・アレア モトモト アントノモン {ヤッテ/デ} サッフア ヨメネ イッタンヤガ。(あの人は元々安島の人で崎浦へ嫁に行ったんだよ。) ※サッフア：崎浦(地名)
- ・ウチノ オババ アントノモン {×ヤッテ/デ} ズーット アントネ スンドゥヴァ。(うちのおばあさんは安島の人でずっと安島に住んでいる。)

〈仮定形〉

名詞述語型の形容名詞・名詞に「ヤッター」または「ナラ」を付す。ナ付加型の形容名詞には「ナヤッター」または「ナカッター」を付す。

- ・ワツダヤッター ドー シル。(お前たちだったらどうする。)
- ・イヤナラ ミントケア イーンヤガ。(嫌なら見ないであげばいいんじゃないか。)

・ンダコノ コーモ モット {ケッコナカッター/ケッコナヤッター} イカッターネ。

(我が家の子ももっと綺麗だったら良かったのに。)

〈否定形〉

形容名詞・名詞に「デ」を付しネー(無い)を続ける形である。否定形自体はネー(無い)と同様の活用をする。

- ・ナーモ イヤデネー。(全然嫌じゃない。)
- ・コレ ンダノ カサデネーガ。(これ私の傘じゃないよ。)

〈なる形〉

形容名詞・名詞に「ン」または「ネ」を付しナル(なる)を続ける形である。ンに終わる形容名詞・名詞には「ネ」を付すかまたは直接ナルを続ける。なる形は動詞「なる」と同様の活用をする。

- ・トリン ナッター ソラオ トンタイワ。(鳥になったら空を飛びたい。)
- ・アノコ ダイッサマネ ナッタンジャト。(あの子は大工になったんだそうだ。)
- ・マガンジョガ ジェン ナッサケ。(パフンウニがお金になるから。)

〈副詞形〉

形容名詞に「ネ」を付す。

- ・アッショ ノバシテ ラクネ シテクンサイ。(足を伸ばして楽しんでください。)
- ・ナエガ ケッコネ ウエタルナ。(苗が綺麗に植えてあるな。)
- ・モット ジョンネ デキンカ。(もっと上手にできないか。) ※ジョーズ：上手。ズが撥音化した上に母音の短縮も生じている

〈丁寧形〉

この方言には丁寧形を作る生産的な文法形式がない。

〈のだ形〉

形容名詞・名詞に「ナンジャ」または「ナンヤ」を付す。

- ・ンダコノ ヨメサンドマモ スキナンジャ。(我が家の嫁さんなんかも好きなんだ。)

参考文献

上野善道(1984)「N型アクセントの一般特性について」

- て」平山輝男博士古稀記念会（編）『現代方言学の課題2 記述的研究篇』明治書院, 167-209.
- 柴田武（1962）「音韻」国語学会（編）『方言学概説』武蔵野書院
- 東条操（1954）『日本方言学』吉川弘文館
- 新田哲夫（2011）「福井県三国町安島方言における maffa 等の重子音について」『音声研究』15(1), 6-15.
- 野間純平（2011）「大阪方言の文末詞デとワ」『阪大社会言語学研究ノート』09, 30-45.
- 松倉昂平(2022)『福井県嶺北方言のアクセント研究』武蔵野書院
- 松倉昂平・新田哲夫（2016）「福井三型アクセントの共時的特性の対照」『音声研究』20(3), 81-96.
- 松倉昂平・新田哲夫（2020）「福井県三国町安島方言における hadderu 《外れる》等の重子音の生起条件について」第6回「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」オンライン研究発表会発表資料

（松倉昂平）

方言文法研究会編『全国方言文法辞典資料集(9) 活用体系(7)』オンライン先行公開版
公開日：2024年10月20日
冊子版発行日：2025年3月（予定）